



コンゴ共和国プロジェクト 西原智昭

2014年5月ー7月

クリック募金による寄付は、2014年5月から2014年7月までの期間では、引き続き、ゴリラの保全、調査、エコツーリズムを実施しているコンゴ共和国・モンディカの森での活動費の一部ほか、コンゴ共和国北部全体のゴリラの生息状況調査の経費にも活用させていただきました。

・警備が強化される

5月から7月までの期間、モンディカを訪れた観光客の数が徐々に増えてきました。依然、隣国・中央アフリカ共和国の内戦とそれに伴う政情不安が継続していますが、コンゴ共和国北部に近い中央アフリカ共和国南東部は比較的安定してきています。また、コンゴ共和国側では、軍隊を強化するなど国境警備を厳しくしており、またヌアバレ・ンドキ国立公園のパトロール隊の数も現在増強中です。確固たる保護活動なしには、モンディカなど国立公園での研究やツーリズムは実施しえないからです。



HCO ScoutGuard

Copyright WildCRU/Michelle Klailova

06.16.2014 08:51:33

写真1. 赤外線固定カメラで撮影されたヒョウ ©Michelle Klailova

・今期の調査

モンディカでは、コンゴ人マネージャーのもと、対象地域に生息する2つのゴリラのグループのキング・グループとブカ・グループの追跡を継続しています。現在、2人のコンゴ人研究アシスタントが常駐しており、交代制で、二つのゴリラのグループに関する食性、個体間の社会行動、遊動域に関する調査を実施しております。また、前回も紹介した、赤外線固定カメラによる動物撮影の調査も一段落し、これから研究者が何千枚もの写真をもとに、報告書を作成していきます(写真1)。

ブカ・グループの若オスとして長年グループに滞在していた“モビンバ”というシルバーバック個体が、このころから、徐々に群れを離れるようになりました。若オスはある年齢になるとメスを探し新たな自分の群れを形成するために、一頭群れを離れます。通常、性成熟を迎えた10歳代前半で、このようなヒトリゴリラとなります。ただモビンバの年齢は18歳と推定されており、やや遅めの「出奔」ということになります。ブカ・グループの中でも、とりわモビンバは人間を恐れることなくこちらに近づいてくるような傾向のあった個体で、それがいよいよ群れを離れていくとなると、こちらも幾ばくかの寂寥感を感じるものです。



またこの時期、コンゴ共和国首都ブラザビルにあるマリン・グアビ大学より、修士号の学生一人を含め、合計5人の学生を受け入れ、それぞれの調査テーマによる研究の機会を提供しました。次の世代の研究を育成していくのに、こうしたプロセスは必要不可欠なものです。

モンディカ・キャンプは、パソコン、衛星電話、GPSや懐中電気のための充電用電池などを充電するために、また無線機を稼働させるために、エネルギーが必要です。これまでソーラーシステムにて何とかしのいできましたが、もとよりキャンプが森の中にあり日照時間が少ないのと、天候の悪い日などが続くと、電気に事欠くことがあります。それを補てんするために、小型発電機を最小限使用することに決定しました。クリック募金により、7月小型発電機を購入させていただきました(写真2)。また、これまで使用していた雨具を新規取り替える必要が生じ、この期間のクリック基金を活用して。ゴリラ追跡に携わっている先住民のために、20着の雨具を新たに準備しました(写真2)。



写真2：
新たに購入されたモンディカ・キャンプ用の発電機(左)
とゴリラ・トラッカー用のレインコート(右) ©西原智昭

・伐採会社社長の訪問

2014年6月には、ヌアバレ・ンドキ国立公園南部と東部にて、熱帯林伐採事業をしている伐採会社CIBの社長さんご一行がモンディカを訪れました。先方からの要望で、西原が現地でのガイドを務めました(写真3)。すでに以前の報告書で何度か言及してきましたが、モンディカ地域は正確に言うと、ヌアバレ・ンドキ国立公園に接してはいますが、公園内は含まれておらず、コンゴ共和国政府の行政上はCIB社が伐採の権利を所有する伐採区になっています。ただ、モンディカでのゴリラの研究・調査の進展と、ツーリズム発展の重要性を鑑み、CIBはその伐採区でありながらモンディカ地域を「保護地域」にしました。CIBの決定あってこそこのモンディカなのです。ご一行はモンディカ滞在中、キンゴ・グループまたはブカ・グループの観察を堪能され、無事帰途に就かれました。

前報告書で指摘しました通り、サンガ川の西



写真3：モンディカを訪問した伐採会社社長(左写真の左側)
とモンディカのゴリラを観察する同社長 ©西原智昭

地域にて、西原のコーディネートによる動物分布調査は継続されています。調査は、9月半ばには完了する予定です。今回の報告書の期間も、この動物センサス・プロジェクトの経費の一部(担当者のコンゴ国内出張など)を、クリック募金から活用させていただきました。

このようにクリック募金は、モンディカだけでなく、地球上最大のゴリラの頭数を誇るコンゴ共和国北部全体の野生のニシローランドゴリラの保全・研究活動に大きく貢献し続けていきます。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。